



特集 経営学部・政策科学部の挑戦

大阪茨木新キャンパスで始まる 新たな教学展開

2015年4月の大阪茨木新キャンパス（以下、OIC）の開設に向け、7月より建設工事が始まっています。

OICの開設が、教学はもちろん、グローバル展開や地域・社会連携についても立命館の新たなフェーズを開く契機になるとして、学内外の期待はますます高まっています。今回は、OICに移転する経営学部の池田伸学部長、政策科学部の重森臣広学部長に、両学部で進めている教学改革の取り組みとともに、今後に期する思いを語っていただきました。



重森 臣広
政策科学部長

池田 伸
経営学部長・経営学研究科長

るところは大きいでしょう。

**OIC開設を機に、
両学部が取り組んでいる
教学改革について
ご説明ください。**

重森 OICはキャンパスコンセプトとして「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」を掲げています。政策科学部はこのコンセプトに沿って新しいカリキュラムを編成し、来年度からスタートさせます。その一環として取り組んだのが、言語教育改革です。ヨーロッパ言語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、イタリア語）に加え、アジア言語（中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語）を初修言語として履修できるようにしました。「アジアのゲートウェイ」にふさわしい教育の一つとして、とりわけアジア言語教育の充実を図り、言語学習



からアジアへと視野を広げていきたいと考えています。一方、英語については、従来のように「英語を学ぶ」のではなく、「英語を使って」学ぶことに主眼を置く教育を展開していくつもりです。

池田 経営学部では、移転後の新カリキュラムの先行実施に伴い、来年度から「アジア・中国ビジネスプログラム」をスタートさせます。中国を中心にアジア各国へ学生を送り出すとともに、留学生も積

極的に受け入れられます。学生にとって、著しい経済発展を遂げるアジアのエネルギーを肌で感じながら学ぶことは、刺激的でチャレンジングな体験となるはずですが、また相互交流を深めることで、グローバルな知見を学内での学びにも生かしていきたいと考えています。

重森 大学での「学び方」についても変化が求められています。政策科学部は比較的規模が小さいこともあり、早くからゼミナール型の授業をカリキュラムのコアに据えてきました。新たな教育体制の下では、こうしたコアを拡大させつつ、従来型の講義科目とのバランスを取っていくことが課題です。

池田 政策科学部とは対照的に、経営学部は大規模社会学部であり、小集団教育の充実が課題でした。これまでの教育の蓄積を大切にしながら、小集団の演習型の授業を教育

**OIC開設に
どのような期待をお持ちか、
お聞かせください。**

重森 政策科学部は設置当初から京都市、またBKCのある草津市の協力を得ながら地域の中に学習基盤を築き、地域に密着したコミュニティ内での教育・研究を重視してきました。新たに大都市圏内にキャンパスができることで、教育・研究のフィールドやネットワークがますます広がると共に、衣笠、BKC、そしてOICの3拠点での面的な教育・研究展開も可能になると期待を膨らませています。

池田 地域に学ぶという点では、経営学部も同様の魅力を感じています。BKCが郊外に位置するのに対し、OICが開設されるのは、企業集積地により近い立地です。多くの企業と密接なコミュニケーションが可能になれば、経営学部の教育・研究においても得

※パースは2012年12月現在の検討段階のものですが、また、防災公園（岩倉公園）部分は、現段階の茨木市の計画を基に大学が作成したものであり、変更される場合があります。



OIC移転にあたって、学生もさまざまな活動に取り組んでいるようです。そうした学生の主体的な取り組みをどう評価されていますか。

重森 例えば2回生のゼミナール「研究入門フォーラム」では、学生がOICのオープンスペースの活用を検討しています。主体的な学びを通じて、学生が教員の思いもよらないことを発見したり、教員を超える学びを獲得することが、プロジェクト型教育の

狙いです。OICへの移転が、学生の主体的な学びを後押しする契機になれば、すばらしいですね。

池田 経営学部でも、有志の学生が、茨木市民の方々と対話を通じて茨木市を知り学生と市民が協力してまちづくりに取り組む「立命館・茨木パートナーシッププロジェクト(RIPP)」が始まっています。学生のこうした活動はまさに、本学が導入しようとしているPBL(Project/Problem/people/learning)を実践するもの。学



の骨格に据え、積極的に展開していくつもりです。

「都市共創」や「地域・社会連携」に関わるプログラムはありますか。

池田 経営学部では「産学協同アントレプレナーシップ教育プログラム」を推進しています。会計や経営管理といったグローバルに共通する知識をベースにしつつも、既存のビジネスモデルにとらわれないことなく新たな道を切り拓く。すなわち標準的な知識とそれ

を乗り越えようとする志向性こそが、私たちの考えるアントレプレナーシップです。社会や地域からグローバルな課題を見出し、問題解決の手段を実践的に探求めることができる、「グローバル・アントレプレナーシップ」に溢れる学生を育てることを目指します。

重森 政策科学部では、地域にオフキャンパスの学習拠点を置いて学生を送り込み、地域の中で研究課題を見出し、問題解決を通じた学びに力を注いできました。今後はさら

に海外にもそのような学習拠点を置き、グローバルにこうした実践的な学びを展開していくことを考えています。

池田 地域と密接に関わりながら教育・研究を展開するだけでなく、その成果を還元し、私たちが地域に貢献することが重要ですね。

同じ社系学部が同じキャンパスに会うことで、相乗効果も期待できるでしょうか。

重森 政策科学と経営学は本来、非常に近い学問分野です。個人的には多くの相乗効果が生まれると期待しています。例えば、経営学部はすばらしい社史のコレクションを備えています。これに、市町村史や都道府県史といった行政面の蔵書が加われば、自治体と企業の関わりなど厚みのある研究を促す意義深いコレクションになることでしょう。

生の主体性や行動力を頼もしく思います。

全学の教職員のみなさんに向けて、意気込み、メッセージをお願いします。

重森 新キャンパスでは、これまでに取り組んだことのない教育に挑戦していくつもりです。教学改革を含め、OICで生まれた新しい取り組みを学園全体に還元することを目指していきます。

池田 OICに寄せられる期待に応え、移転を通して立命館大学のキャンパス創造を教育の質的転換に結びつけることが私たちに課せられたミッションだと思っています。建物や立地を新しくして終わりではなく、教職員や学生の活動を持続的に高めていくことが大切であり、そのためにも後も努力を続けていきたいと思っています。

安全祈願祭が行われました

7月10日(水)、大阪茨木新キャンパス建設予定地において、「大阪茨木新キャンパス整備事業 安全祈願祭」が行われました。安全祈願祭には、長田豊臣理事長や川口清史総長をはじめとする本学関係者および、茨木市、株式会社山下設計、株式会社社竹中工務店の各関係者が臨席し、厳粛に執り行われました。



池田 「デザイン科学」の観点から経営・社会現象に革新的なアプローチをする「デザイン科学研究センター」を中心に研究面でも共通のテーマに取り組みすると思います。また「産学協同アントレプレナーシップ教育プログラム」がいずれは全学に広がっていかばと考えています。まずは最も身近な政策科学部と共同で取り組めればおもしろいですね。

重森 両学部の学生の関心も重なるところが多く見られます。私のゼミでも民間企業を研究テーマに据える学生が少なくありません。また実社会でも、民間営利企業が公共政策に関わる事業に携わったり、公共機関に民間企業の発想が求められたりといった相互浸透が起こっています。その意味でも両学部の連携は、今後ますます不可欠なものになっていくに違いありません。経営学部とどう共鳴し合えるか、楽しみです。

OICの模型を囲んで 学生と懇談

7月12日(金)、洋洋館・コミュニケーションラウンジ(衣笠キャンパス)において、政策科学部の学生とOICの開設準備に関わっている教職員との懇談会を開催しました。

実際の模型を見ながら、キャンパスの説明や、質疑応答・意見交換をおこなうなど、学生と教職員の「会話」を通して、新キャンパスのより具体的なイメージや理解を深めてもらう機会となりました。



プレゼンテーションやグループワークの機会が多いので、「びあ」のようなグループワークができる場所を広くつくってほしいです。

シャトルバスを運行してほしい!



信田実香さん
(政策科学部2回生)

憩いのスペースが多くあるので、ベンチをおいたりして、くつろげる空間が創出されればと思います。



カフェなどのくつろぎスペースを!

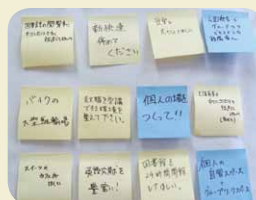
グループワークスペースをつくらしてほしい!

OICへの移転はとても楽しみです。学生、教職員、地域のみなさん一人ひとりにとって居心地のよい自分の「居場所」が見つかるようなキャンパスを期待しています。

村井彩さん
(政策科学部2回生)



森田裕己彦さん
(政策科学部2回生)



学生からは多くの意見が寄せられました。

模型を見ることで、具体的に新キャンパスをイメージすることができるだけでなく、正課・課外を含めて、2015年自分がそこでどんな生活をしているのかを「わくわく」しながら想像できます。

今回、学生のみなさんが生き生きとした目で模型を見ながら、意見やアイデアを出してくれる姿をみて、学生の新キャンパスに対する期待や「わくわく感」を実感することができました。今後も、新キャンパスができあがるプロセスを学生とも共有しながら、開学に向けて、大学全体のボルテージを上げていきたいと思ひます。



大阪茨木新キャンパス開設準備室副室長
服部利幸教授(政策科学部)

7月17日(水)には、 BKGでも開催されました。



大阪茨木新キャンパス イメージアニメーションが完成しました!

OICの全体像をイメージしていただける動画をYou Tube「Ritsumeikan Channel」で公開中です。ぜひ、ご覧ください。

※この動画の内容は、2013年6月時点の検討段階のイメージであり、変更される場合があります。



熱気と期待にあふれる 大阪茨木新キャンパス構想説明会



6月29日(土)、茨木市福祉文化会館において大阪茨木新キャンパス構想説明会を開催しました。この説明会は、茨木市民の方々に開催したもので、新キャンパスの計画概要だけでなく、本学の教育・研究の取り組みや学生の諸活動について、また新キャンパス開設への決意をお伝えしました。当日は、市民の方々はじめ、茨木市の関係者や学校関係者など、会場が満員となる約350名の参加があり、新キャンパスに多くの期待と関心を寄せていただいていることが感じられました。



川口清史 総長

私立大学の使命は、社会の要請に応えていくことです。主体的に学び、自らの意志で行動できる人材の育成が求められている今、私たちは教育の質的転換を実現していかなければなりません。このためには、大学と地域・社会との連携が必須です。新キャンパスでは、大学・学生の力を活かした地域づくりを行うと共に、学生・教職員・地域社会が相乗効果を持って連携する新しいモデルを打ち出したいと思ひます。地域のみなさんにとってもOICが新しいコミュニティの場、学びの場として愛されることを願っています。



茨木市長 木本保平 氏

大阪茨木新キャンパスの開設には大きな期待を寄せておりますし、2015年4月を心待ちにしております。すでに茨木市では立命館大学の学生のみなさんが市の街づくりに参加してくれています。市といたしましても、学生のみなさんが卒業しても茨木に住みたいと思ひていただけるような街づくりを行っていききたいと思ひます。



茨木市議会議長 山本隆俊 氏

今回の構想説明会の開催は、茨木市民と立命館大学の学生・教職員のみなさんがひとつになって協働する第一歩だと思ひます。新キャンパスの開設は、地域活性化につながると大きな期待をしておりますし、ぜひ、茨木市民が誇りに思えるようなすばらしいキャンパスを開設していただきたいと思ひます。そして、立命館大学との連携をさらに強化し、魅力ある茨木市をつくらしていきたいと思ひます。



学生が制作した小冊子「Roots」を手に学生の活動報告を聞く参加者
(学生の活動についてはP10-11をご覧ください)



新キャンパスの構想について説明する見上崇洋副総長



熱心に資料に目を通す参加者